

## 第2回西尾幡豆定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

- ・日時：平成22年3月31日（水）14:00～15:30
- ・場所：西尾市役所4階 41 会議室
- ・出席：（委員）近藤照夫、田中正規、尾崎隆爾、都築昭史、牧野英紀、大河内正敏、古澤孝行、鈴木昭夫、樫山幸彦、小松康弘、服部憲明、牧野匠、白井利幸、稲垣敏子  
（事務局）榊原課長、服部主幹（一色町）、近藤課長（吉良町）、深谷課長（幡豆町）、谷崎主事、大内主事  
（欠席）細井慎一

【敬称略】

### 1 あいさつ

- ・大河内座長からあいさつを行った。

### 2 協議事項【西尾幡豆定住自立圏共生ビジョン（素案）について】

事務局から、素案における留意事項を説明。

主旨：名鉄西尾・蒲郡線関係の記載について、名鉄西尾・蒲郡線対策協議会で支援措置などが協議中であったため、現時点での素案には委員意見が反映されていない。次回懇談会時の案には反映させる。

事務局から、現時点での素案について説明。要旨は以下のとおり。

- ・前回の素案の段階では、全5章までの章立てで構成されていたが、『圏域の可能性と課題』という章を省き、4章までの構成とした。内容面では、最終章の『今後の検討課題』の部分でカバーする。
- ・序章では、「3」のこれまでの取り組みを追加した。分かりやすい計画書を目指した変更である。
- ・1章では、細かい統計データの掲載を中止することとした。新市基本計画や総合計画と重複するため。それに代わり、「都市機能の集積状況」の一覧表を記載した。
- ・2章には、『定住自立圏の形成に向けた基本的な考え方』、『圏域のづくりの目標』、『定住自立圏の形成の3つの視点』のそれぞれに対し、3項目を記載した。
- ・3章には、計10事業を掲載した。（内容等は資料参照）
- ・4章の記載は、主に、委員の方からいただいた意見をもとに構成されている。

その後、委員から事務局への質疑及び内容に関する議論を行った。各委員の発言主旨は、以下のとおり。

(生活機能の強化・P 6～8)

- ・市民病院と民間病院の役割分担が必要。
- ・病院が勝手に進めるのではなく、市民の方に見えるような形で施策を進めていくべき。
- ・地域医療のあり方についての市民向けの講座やセミナーが有効。
- ・医師が頑張っているというPRが必要。
- ・この地域の医師会は小規模なので、休日診療で精一杯。夜間診療をする余裕がない。
- ・体が悪くなったら病院にかかるのは当たり前。予防など、自分の体をコントロールできるように住民を教育すべき。
- ・病状が悪化する前に、気軽に家庭医を利用できるような雰囲気づくりが必要。
- ・施策の決定に向けての作業が市民に見えるようにするべき。

(結びつきやネットワークの強化・P 9～11)

- ・素案には一色魚ひろばの活用が出てこないため、検討してほしい。
- ・現状では、駐車場がうまく機能していないため、道の駅にしお岡ノ山のイベントに、バスが入れない。新たな駐車場の整備等、何らかの対策が必要。
- ・道の駅岡ノ山は風が強い。なんらかの対策が取れないか。
- ・道の駅だけでなく、町の中心部、例えば本町などでも地産地消の取組を進めていくべき。
- ・西尾幡豆地域は、車がないと不便、公共交通機関が貧弱。充実を図っていくべき。
- ・西尾・蒲郡線の活性化のためにはパークアンドライド、サイクルアンドライド、キスアンドライドなどに向けた駐車場等の環境整備が必要。
- ・イベントや催し物との連携を強化し、鉄道利用率の向上を図っていくべき。
- ・鉄道を利用しない層への意識改革の働きかけにより、鉄道利用率の向上を図れないか。(学校教育の中で地域学習の一環として鉄道の利用実態や存在意義などを学ぶ場を設けることや、通勤手段としての鉄道利用の方法を従業員自らかんがえてもらうこと)
- ・大量輸送機関の特性が発揮できないことから、圏域内から直接名古屋方面への直行便を運行させ、朝夕の通勤者利用を図るよう名鉄に要請していくべき。
- ・沿線での住宅地の整備など、通勤世帯を定住させる施策を進めていくべき。
- ・幡豆郡3町内の駅などを巡回するコミュニティバスを運行、また佐久島や宮崎温泉など史跡、観光地と駅を結び、圏域外利用者の誘致を検討すべき。
- ・駅を町の中心として位置づけ、街づくりをすすめていくべき。

(圏域マネジメント能力の強化・P 12～13)

- ・電算システムは合併に向けて、現在具体的なデータの統合作業が進められている。

6 その他

第3回会議は平成22年4月14日(水)午後2時から開催する。